

令和元年度大阪府立刀根山支援学校 学校教育自己診断アンケートの結果考察

はじめに

- 1 アンケートは児童生徒、保護者、病院関係者、教員を対象に11月～12月に実施した。
診断項目に対する回答は、「A：よくあてはまる」「B：ややあてはまる」「C：あまりあてはまらない」「D：全くあてはまらない」とした。
- 2 診断項目及び集計方法等は、全診断項目を平成30年度は精選した。
集計にあたっては、肯定的な回答をA+B、否定的な回答をC+D、無回答に分類し、結果の顕在化のため、「A：よくあてはまる」「B：ややあてはまる」「C：あまりあてはまらない」を網掛けで示した。(児童生徒：10項目、保護者：16項目、病院関係者：9項目、教職員：26項目を対象とし考察した。)

児童生徒アンケートの結果

- 「授業はわかりやすく楽しい」〔A+B〕の割合が88%、昨年度は82%で6%上昇した。今年度は、全教員がICT機器を活用した授業実践を実践報告集に投稿するなど、授業力の向上を進めており、「学び」を児童生徒の力としていきたい。
- 「先生はわたしたちのことを大切にしている」「先生は、周りの人とのつながりに気を配ってくれている」の2項目は、「よくあてはまる」だけで60%を超えている。先生への信頼が厚く、子どもどうしの関係性を大切にしている。
- 進路マニュアルにより、より細やかな進路指導が可能になったが、「自分の将来や進路について、考える機会がある」の〔A+B〕の割合が57%と昨年度を下回った。今後はキャリアパスポートを活用してキャリア教育の充実を図る。「先生は、いじめについてわたしが困っていることがあれば真剣に対応してくれる」の項目については、「よくあてはまる」「ややあてはまる」の合計が、68%という結果であったが、児童生徒の26%無回答(内訳は訪問5名、精神5名、阪大5名、滝井1名、枚方1名)であることから、いじめという限定に答えにくさがあるのではないと思われる。

保護者アンケートの結果

- 「学校は、子どもの将来や進路などについて適切な指導を行っている」〔A+B〕の割合が70%と昨年度を下回った。今後はキャリアパスポートを活用してキャリア教育の充実を図る。
- 「学校は、いじめについて子どもが困っていることがあれば真剣に対応してくれる」〔A+B〕の割合が58%という結果であった。保護者の37%無回答(内訳は訪問10名、本校1名、阪大5名、滝井4名、枚方1名)であることから、いじめという限定に答えにくさがあるのではないと思われる。
- 「学校は、地震や台風警報等への対応を保護者に伝えている」〔A+B〕の割合が56%で昨年度とほぼ同じ結果であった。学校運営協議会の中で、震災時に保護者が迎えに行けない場合の対応について質問があったが、転入時の教育相談で学校の方針を周知する必要がある。

病院関係者アンケートの結果

- 9項目中8項目で「よくあてはまる」「ややあてはまる」の合計が70%を超えている。今年度当初より医教連絡に重点を置いて運営してきたことが病院の理解を得ている。「学校は、子どもの治療や入院生活に良い影響がある。」の項目については、「よくあてはまる」「ややあてはまる」の合計が93%と高く、引き続き医療と教育の意思疎通や情報共有の場を大切にしていきたい。
- 「子どもは、学校（病棟）で学習することを楽しみにしている。」の合計が昨年度と同様に肯定的な回答が80%を超えており、全般的には本校の教育活動が評価されている。
- 「学校では、子どもの個人情報を守られている」について、〔A+B〕が85%で昨年度とほぼ同じ結果であった。校内において、ヒヤリハット事案は全教員で課題を共有し、全部署での再確認を行っている。

教職員アンケートの結果

- 「医療機関や前籍校との連携が活発に行われている」肯定率が93%昨年度は86%で7%上昇した。教頭・教務部・担任の連携がスムーズになり、転入・転出時のシステムが円滑に動いてと思われる。
- 「個人情報保護の観点から児童生徒の個人情報に関する管理システムが整っている」について、〔A+B〕が88%で昨年度とほぼ同じ結果であった。
- 「防災教育・安全指導は十分行われている」〔A+B〕が79%で昨年度とほぼ同じ結果であった。学校運営協議会の中で、震災時に保護者が迎えに行けない場合の対応について質問があったが、転入時の教育相談で学校の方針を周知する必要がある。